

# 奥州街道・一里塚 発掘調査現地説明会

平成20年9月27日(土) 午前10時30分より

宮城県教育庁文化財保護課

## 調査要項

遺跡名 大衡・奥田地区奥州街道・一里塚  
 所在地 大衡村大衡・奥田  
 調査原因 仙台北部中核工業団地造成  
 調査主体 大衡村教育委員会  
 調査担当 宮城県教育庁文化財保護課  
 調査期間 平成20年9月8日～9月末  
 調査面積 約350㎡

## 1. 遺跡の位置

大衡村には、大衡から駒場にかけて江戸時代の奥州街道が残っています。今回調査を行った奥州街道は、昌源寺から北東に約0.6km、大衡村役場から南東に約1kmの範囲に位置します(図1)。仙台北部中核工業団地造成に伴う発掘調査を9月初旬から行ってきました。



図1 大衡村の奥州街道

## 2. 奥州街道・一里塚とは

奥州街道は江戸時代の江戸日本橋を起点にした五街道(東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道)の一つで、江戸から青森の津軽半島三厩に至る幹線道路です(図2)。参勤交代や物資の輸送、旅行などに利用されていました。街道は、江戸幕府の管轄下にはありましたが、実際の整備や維持については、街道沿いの藩が担当していました。街道脇には、一里(36町=約4km)ごとに一里塚が築かれています。一里塚については、慶長(1604)9年に徳川家康が各街道に造築を命じ、奥州街道にも及んでいます。塚には榎や松が植えられ、道標や行程の目安、旅人の休息地として利用できるよう配慮されていたようです。

大衡村に残る奥州街道は、吉岡宿(現大和町吉岡)と三本木宿(現大崎市三本木)の三里二十町(約14km)をつないでいました。今回調査を行ったのは、大衡村大衡(旧大衡村)と奥田(旧奥田村)の両地区の境をはしる部分です。南北方向に約250mにわたって、街道が残っていました。一里塚は、この街道の途中で良好な状態で確認されました。調査した街道と一里塚は、江戸時代の絵図に載っています(図3・4)。特に街道については、昌源寺か



図2 奥州街道の行程  
(『東北の街道』無明舎出版)

らの坂道と、その先のカーブの多い山道のようにすが詳細に描かれています。

近世には主要な幹線道路でしたが、明治時代以降はその役割を陸羽街道(現在の国道4号線に相当)に移しました。しかし、改修を受けながら数十年前まで地域の人々の生活道として利用されていました。



図3 『正保絵図』に描かれた大衡村のようす



図4 大衡村大衡・奥田地区の奥州街道の景観(『増補行程記』盛岡市中央公民館蔵)

## 3. 調査の成果(図5)

〔街道〕街道は、東西から深い沢がいくつも入り込む、南北に延びる細長い丘陵上に造られ、北に向かって緩やかな上り坂となっています。大きく2時期の変遷を確認し、それぞれの構築方法の一端が分かりました。

古い時期の道路は奥州街道と考えられ、地形にあわせたカーブの多い道になっています。場所によっては、約8mも丘陵を削って切り通し状にしたり、最大で3m以上も沢を埋めており、大規模な土木工事により道路が造成されていることが明らかになりました。造られた路面の最大幅は、丘陵切り通し部分で約4m、一里塚周辺で約7mです。2条の道路側溝が確認されるなど、造り替えが行われていたことがわかりました。

新しい時期の道路は、奥州街道を掘りこんで造られています。奥州街道に比べ幅は2～3mと狭いですが、カーブが少なく、直線的に造られています。つい最近まで使われていました。

〔一里塚〕一里塚は奥州街道に伴うもので、直径10m、高さは2.7mです。丘陵を削りだして平坦面を造り、その上に礫混じりの土で最大2.7m盛土していることがわかりました。

※図3・4については高倉淳氏(宮城歴史教育研究会会長)より提供していただきました。





一里塚の全景(北から)  
直径約10m、路面からの高さ約3.3m。



一里塚の断面(西側、北から)  
丘陵を削りだし、その上に盛土をして造り出しています。



6トレンチ付近の街道のようす(南から)  
一段高い部分が奥州街道。



7トレンチの調査風景(北から)  
最大で約5mも丘陵を切り通しています。

図5 平面図(S=1/700)



一里塚のようす(東側、北から)  
一部丘陵を削りだし、大半は旧表土上に盛土をしてつくっています。上から流れてきた土砂に埋まっていました。



一里塚周辺の作業風景(北から)



1トレンチの調査風景(南から)  
最大で約8mも丘陵を切り通しています。



一里塚より北側の街道のようす(南から)

- 新しい道路
- 古い道路(奥州街道)
- 盛土の範囲

#### 4. まとめ

○以前から確認されていた街道を発掘調査した結果、大きく2時期の変遷があり、丘陵地での地形にあわせた道路の造り方が明らかになりました。一里塚の造り方とともに江戸時代の大規模な土木工事のようすがわかりました。

○宮城県内で江戸時代の街道を発掘調査した例は初めてです。さらに、残りの良い一里塚を調査した例もほとんどありません。今回の調査は、江戸時代の基幹道路である奥州街道や一里塚のようすが具体的にわかる大変貴重なものになりました。